

他事業と連携してより効率的な現地確認を目指す

- 現地確認の効率化を目指す！
- 中山間事業の現地確認を他事業の現地確認と合わせて一体的に実施

現地確認の課題

車で入っていけない現地

- ・農地周辺の道はかなり狭く、車に乗ったまま現地確認は行えない
- ・足で現地を見て回るため確認作業が長時間に…



【入り組んだ細い道】

取組内容

他事業と連携して現地確認を実施

- ・8月に実施する米の転作確認で水田協議会が町内全域を回っているため、それに合わせて中山間地域の現地確認も実施

取組の成果

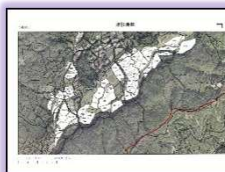
現地確認の効率化を達成

- ・転作確認は課員総出で行うため、合わせて実施することで複数人での中山間地域の現地確認が可能に
- ・転作確認にタブレット端末が用いられるようになり、中山間地域の現地確認もその効果で効率アップ



【使用することになったタブレット】

町の概要



- 筑前町の中山間地域
 - ・筑前町の山間部地域は夜須高原の急傾斜地域
 - ・棚田等において稲作経営が盛んな一方、平場地域に比べ生産条件の格差が大

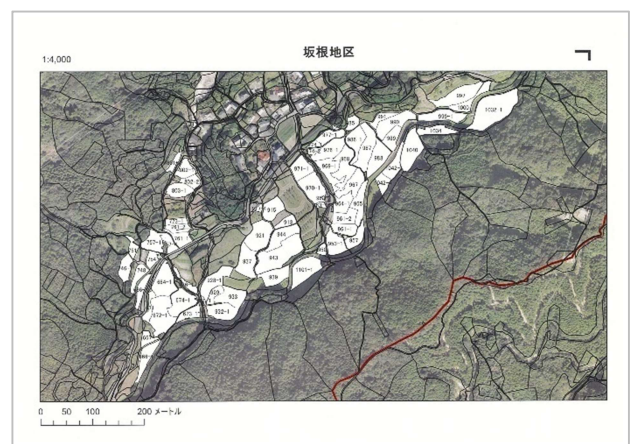
- 集落協定の概要(R3現在)
 - 面積：8.3ha (田)
 - 交付金額：174万円
 - { 個人配分 55% }
 - { 共同取組活動 45% }
 - 構成員：農業者10人、非農家他8人
 - 協定開始：平成12年度

1 町の概要

—筑前町の中山間地域について

筑前町の山間部地域は、夜須高原の急傾斜地域で、棚田等において稲作経営が行われています。一方で平場地域と比べて生産条件の格差も大きくみられます。

中山間地域等直接支払制度については、第1期から第4期まで坂根、櫛木、三箇山の3地域が取り組んでいましたが、高齢化などの理由から第5期からは坂根地区のみの取組となっています。現在は農家10人、非農家8人で活動しており、中山間地域等直払交付金を活用しながら、地域ぐるみで棚田の維持・保全に取り組んでいます。



2 町の抱える課題

—現地確認は時間がかかる！

坂根地区協定農用地は、基本的に平坦であり、目視できる場所のため、ドローンなどを使用する必要はないものの、車に乗って確認するには困難な細道が多数存在しています。そのため、結局歩いて農地を確認する必要があり、現地確認は担当職員にとって手間や時間を要する業務となっていました。

3 取組の内容

——現地確認の効率化

確認作業の効率化を進めるために、他の事業の現地確認と併せて中山間事業の現地確認を行うことにしました。毎年8月、課員総出で米の転作状況の確認をする際は、町内全域を見て回るため、課を挙げて確認作業を行っていました。協定農用地もその範囲内に含まれていたため、転作確認に合わせて中山間事業の現地確認も行うことで業務の効率化が可能になりました。

4 取組の効果

——取組の効果と今後の集落への思い

今まで確認作業を中山間直払担当職員1名で行っていたものが、転作確認と同時に複数人で確認を行うことにより、農地の管理状況について、より客観的な評価・判断が行えるようになりました。また、転作確認でタブレット端末を使用することになり、中山間事業にも利用できることになり、確認作業スピードがさらに上がることとなりました。

今回は町の取り組みについて述べましたが、中山間地域の農地を維持管理していくために一番重要なのは協定参加者のモチベーションを維持することだと考えています。

現在協定内の高齢化が進み、体力面や健康面から意欲の低下が懸念されています。町としては、協定を放置せず、要望に応じて集落戦略会議等の中にも入っていくことで、現状の把握と課題に対する対策を共に考え、長く中山間地域の維持活動を行えるよう支援していきたいと考えています。